

## 将来推計人口にみる三重県の将来の人口及び人口構成の分析

平成25年6月  
戦略企画部統計課

今年3月27日に国立社会保障・人口問題研究所から「日本の地域別将来推計人口」の発表がありました。推計結果のポイントとは以下のとおりとなっています。

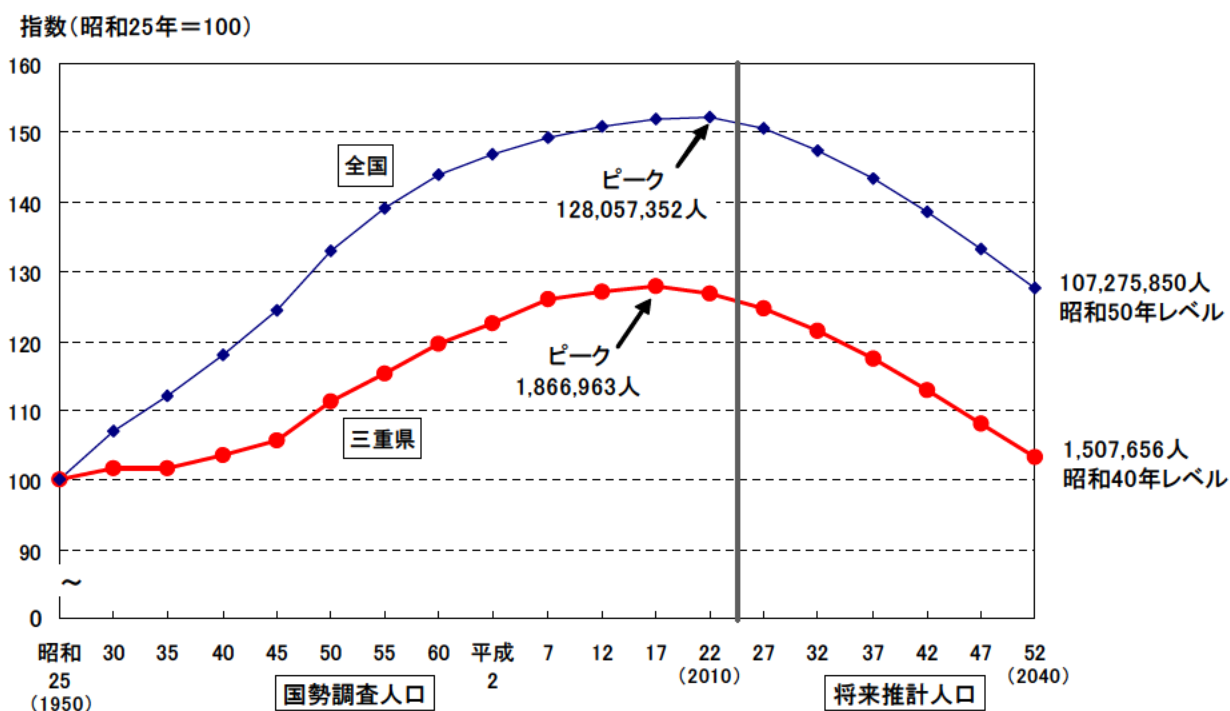
- ① 2040年の総人口はすべての都道府県で2010年を下回る
- ② 65歳以上人口、75歳以上人口は大都市圏と沖縄県で大幅に増加
- ③ 2040年の総人口は、約7割の自治体で2010年に比べ2割以上減少
- ④ 2040年には、65歳以上人口が40%以上を占める自治体が半数近くに

この公表結果を受け、三重県及び県内市町の将来推計人口や将来の人口構成がどのように変化するかについて、また、人口減少をもたらしている少子化の要因について分析しました。

なお、人口問題研究所の今回の推計は、基本的に平成17年から22年の人口移動率が将来も続く(率は低下)という前提であるため、各自治体の今後の政策次第で大きく変化することが考えられます。

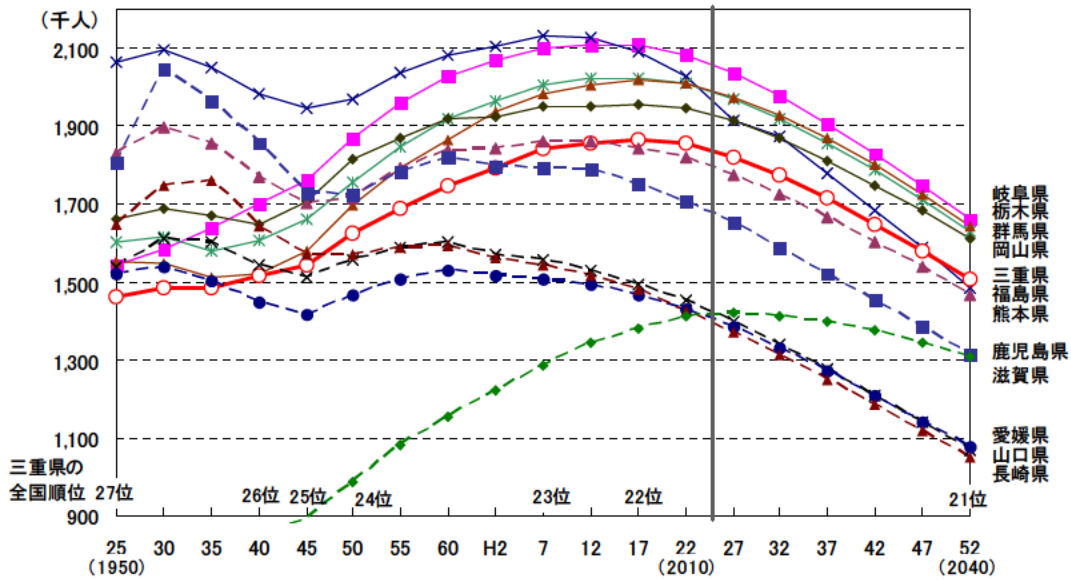
### 1 全国及び三重県の状況

#### (1) 国勢調査人口と将来推計人口による総人口の推移



- 三重県は全国よりも人口増加率は低く推移。特に、戦後及び高度経済成長期の伸び率が低い。
- 三重県のピークは平成17年で187万人。全国は22年で約1億2,806万人。
- 全国では、平成22年～52年の30年間で約2,078万人、およそ近畿6府県を合わせた人口が減少。
- 三重県では、平成22年～52年の30年間で約35万人、およそ四日市市と菟野町を合わせた人口が減少。

## (2) 三重県と人口規模が同クラスの県との比較

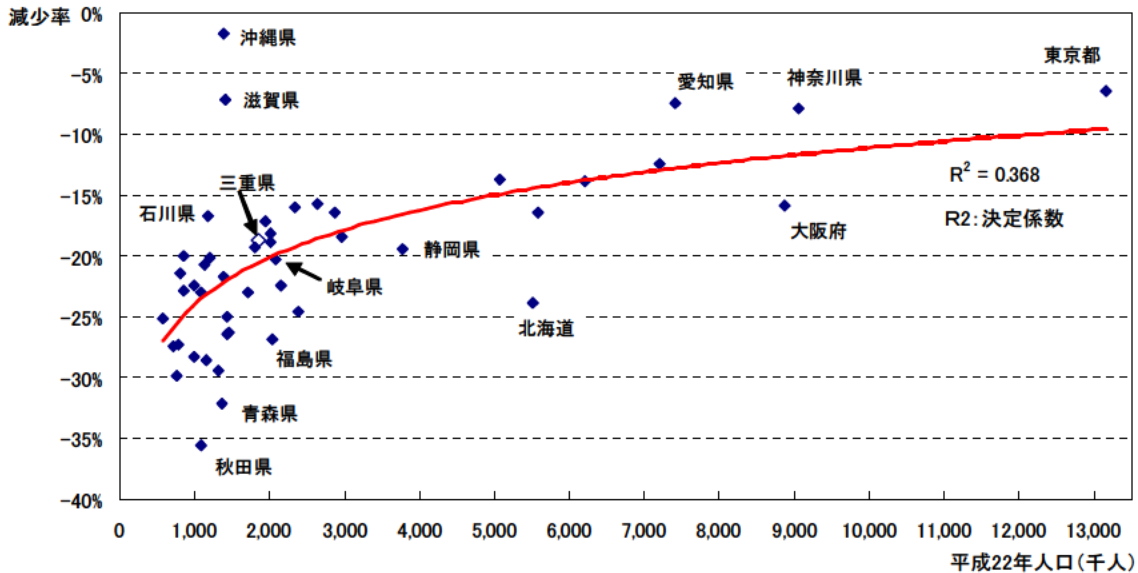


	岐阜県	福島県	群馬県	栃木県	岡山県	三重県	熊本県	鹿児島県	山口県	愛媛県	長崎県	滋賀県
ピーク	H12	H7	H12	H17	H17	H17	H7	H2	S60	S60	S60	H27
H22(2010)国調	2,081	2,029	2,008	2,008	1,945	1,855	1,817	1,706	1,451	1,431	1,427	1,411
H52(2040)推計	1,660	1,485	1,630	1,643	1,611	1,508	1,467	1,314	1,070	1,075	1,049	1,309

- 三重県では昭和25年以降は順調に人口増加が進み、全国順位も27位から22位に上昇。
- 平成52年推計では三重県は福島県を抜いて21位。(福島県は震災の影響が反映されている。)
- 滋賀県はこれまでの増加幅が大きく、将来の減少幅も小さい。

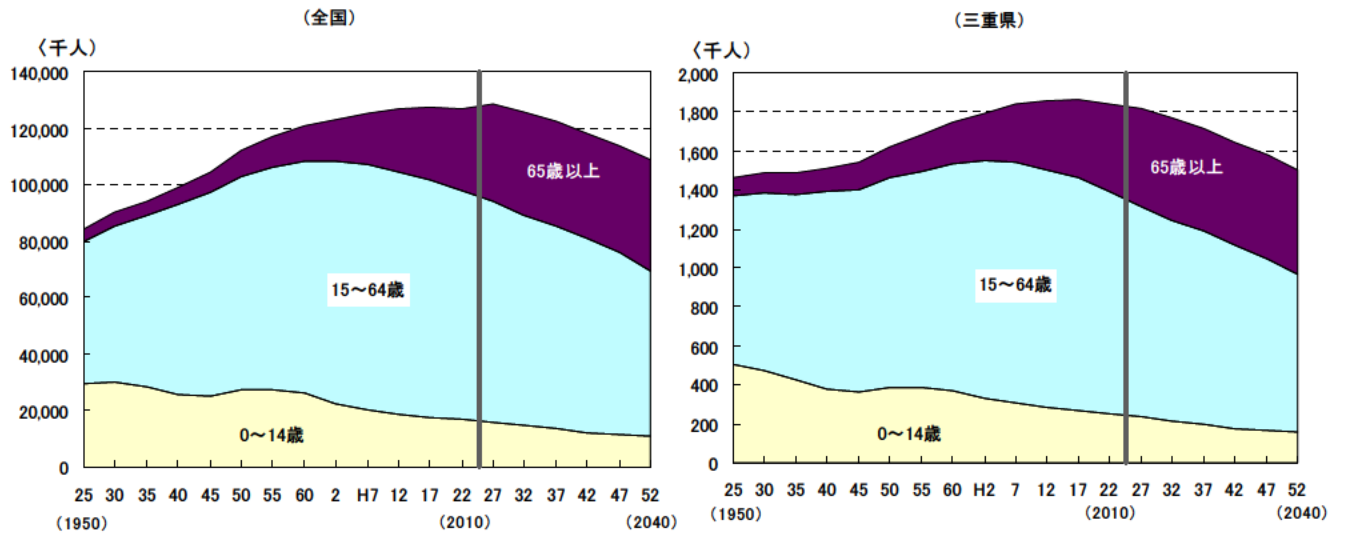
## (3) 都道府県の人口と人口減少率の相関

都道府県別に平成22年の人口と平成22年から52年の人口減少率の相関をみたのが次のグラフです。



- 北海道、沖縄県、滋賀県を外れ値とすると、人口と減少率の決定係数は0.605(相関係数は0.76)と、かなり強い相関関係が認められる。→人口が少ない県ほど減少率が大きい。
- 三重県の減少率は18.7%で全国よりも2.5ポイント高いが、全国順位は30位で、人口に比しても高くはない。

#### (4) 年齢(3区分)別人口の推移

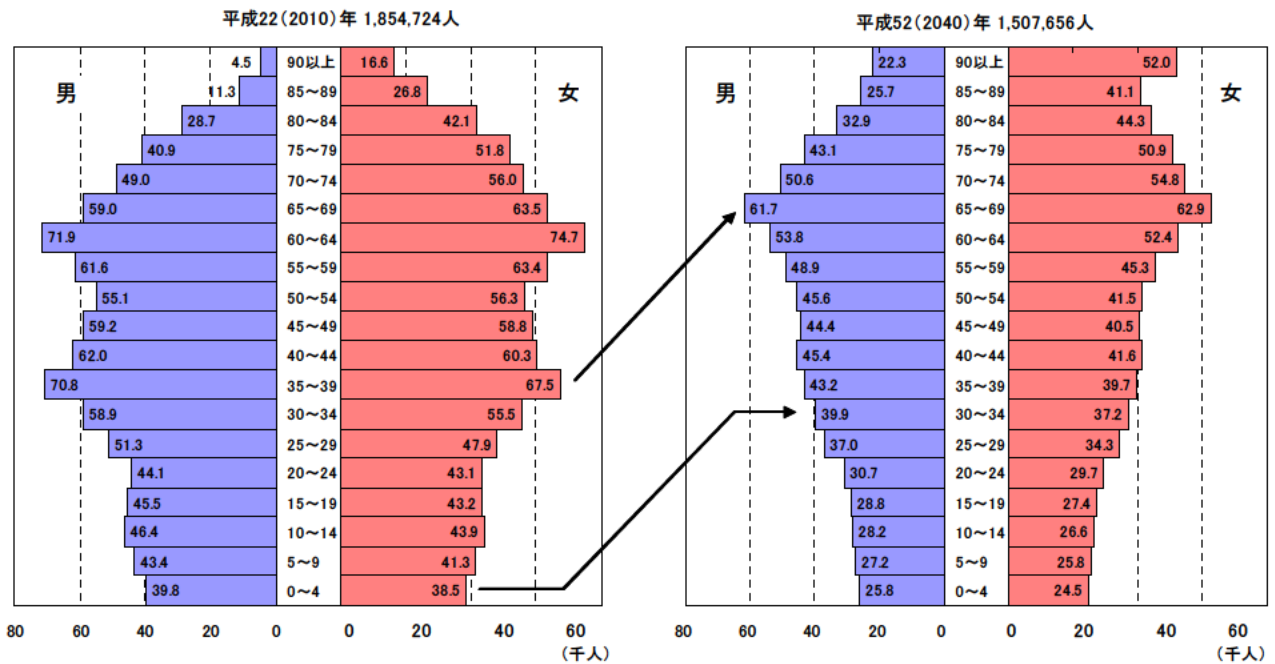


【65歳以上人口割合(高齢化率)の推移 (%)】

	25 1950	30	35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22 2010	27	32	37	42	47	52 2040
全国	4.9	5.3	5.7	6.3	7.1	7.9	9.1	10.3	12.1	14.6	17.4	20.2	23.0	26.8	29.1	30.3	31.6	33.4	36.1
三重県	6.1	6.7	7.2	7.9	9.0	9.9	11.1	12.1	13.6	16.1	18.9	21.5	24.3	27.8	29.8	30.8	32.0	33.5	36.0

●三重県の平成52年の人口は昭和40年レベルだが、65歳以上人口割合(高齢化率)が7.9%から36.0%になり、人口構成は大きく変わる。

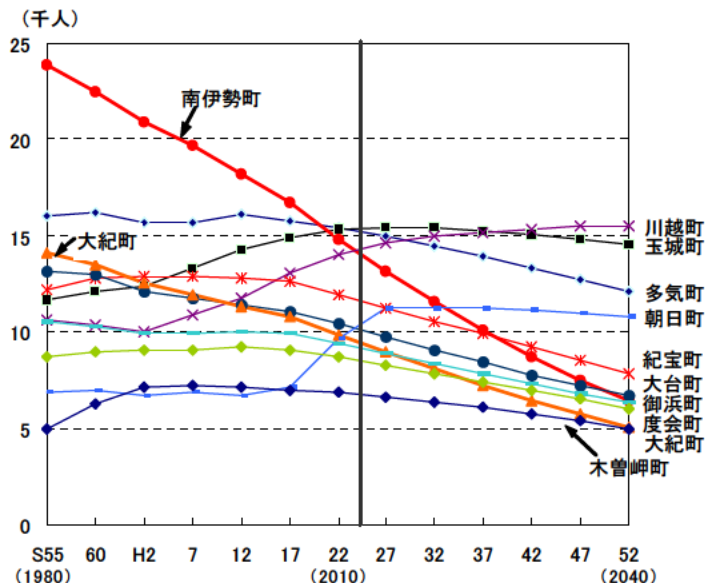
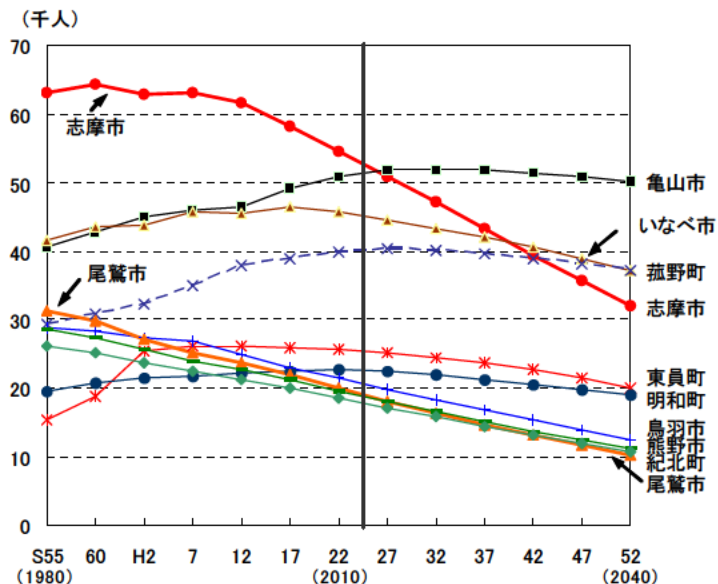
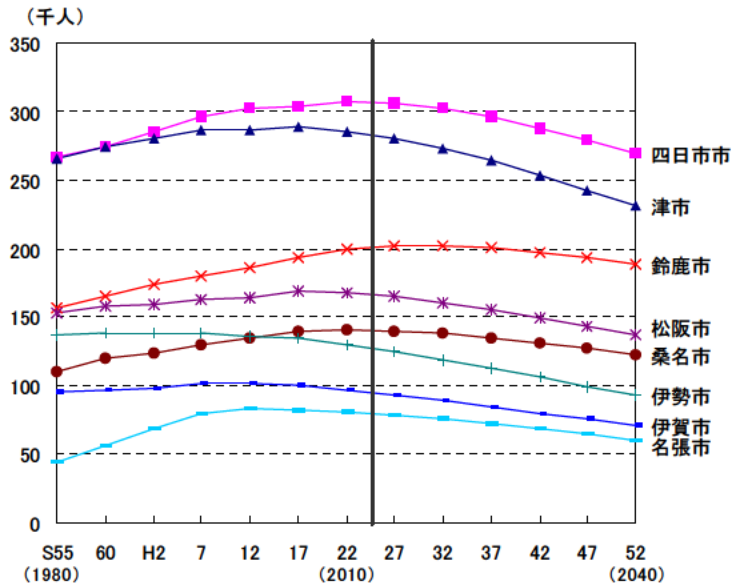
#### (5) 三重県の人口ピラミッド



●平成22年の団塊ジュニア(35-39歳)が平成52年には65歳以上の高齢者になり、高齢化率を上昇させる。  
●平成52年の30-34歳以下はこれからの出生率次第であり、出生率が今以上低下しなければ全体の人口減少に歯止めがかかる。

## 2 三重県内市町の状況

### (1) 市町の国勢調査人口と将来推計人口による総人口の推移

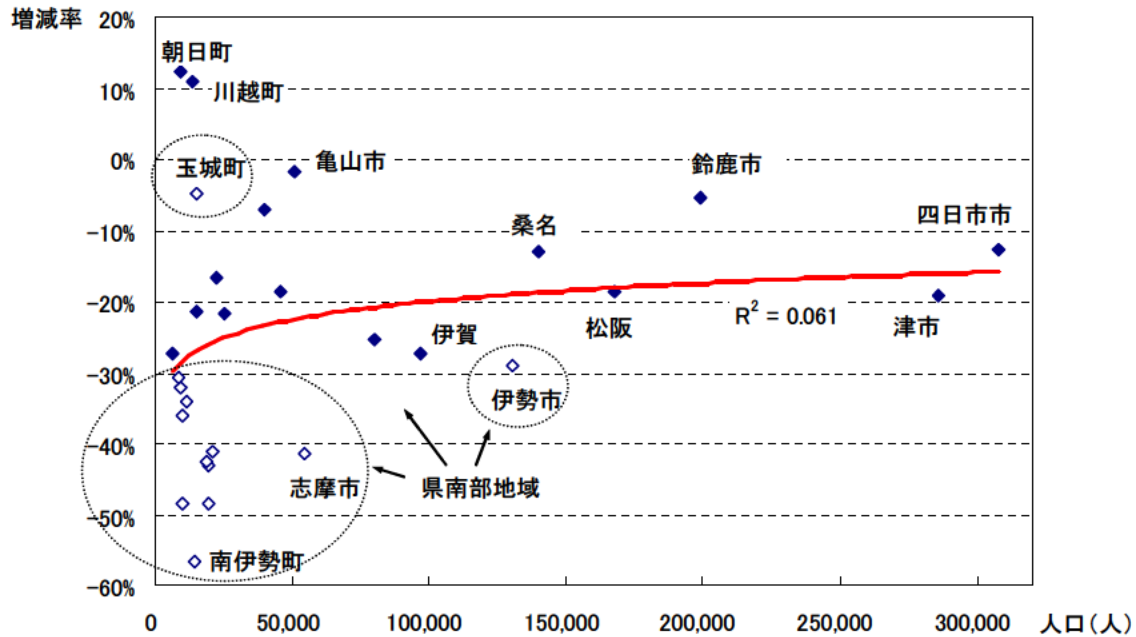


	平成22年 国勢調査	平成52年 将来推計	増減数	増減率 (%)
三重県	1,854,724	1,507,656	-347,068	-18.7
津市	285,746	231,321	-54,425	-19.0
四日市市	307,766	268,918	-38,848	-12.6
伊勢市	130,271	92,500	-37,771	-29.0
松阪市	168,017	136,668	-31,349	-18.7
桑名市	140,290	122,202	-18,088	-12.9
鈴鹿市	199,293	188,440	-10,853	-5.4
名張市	80,284	60,037	-20,247	-25.2
尾鷲市	20,033	10,326	-9,707	-48.5
亀山市	51,023	50,119	-904	-1.8
鳥羽市	21,435	12,596	-8,839	-41.2
熊野市	19,662	11,200	-8,462	-43.0
いなべ市	45,684	37,195	-8,489	-18.6
志摩市	54,694	32,123	-22,571	-41.3
伊賀市	97,207	70,577	-26,630	-27.4
木曾岬町	6,855	4,986	-1,869	-27.3
東員町	25,661	20,083	-5,578	-21.7
菟野町	39,978	37,187	-2,791	-7.0
朝日町	9,626	10,832	1,206	12.5
川越町	14,003	15,522	1,519	10.8
多気町	15,438	12,145	-3,293	-21.3
明和町	22,833	19,012	-3,821	-16.7
大台町	10,416	6,666	-3,750	-36.0
玉城町	15,297	14,551	-746	-4.9
度会町	8,692	6,030	-2,662	-30.6
大紀町	9,846	5,078	-4,768	-48.4
南伊勢町	14,791	6,431	-8,360	-56.5
紀北町	18,611	10,707	-7,904	-42.5
御浜町	9,376	6,366	-3,010	-32.1
紀宝町	11,896	7,838	-4,058	-34.1

- 南伊勢町、尾鷲市、大紀町、志摩市の減少傾向は強く、同規模市町の減少率をはるかに上回る。
- 平成22年以降も増加が見込まれるのは、鈴鹿市、亀山市、菟野町、玉城町、川越町、朝日町の6市町のみ。
- 川越町を除き平成32年以降はすべての市町で減少が続く。

## (2) 市町の人口と人口増減率の相関

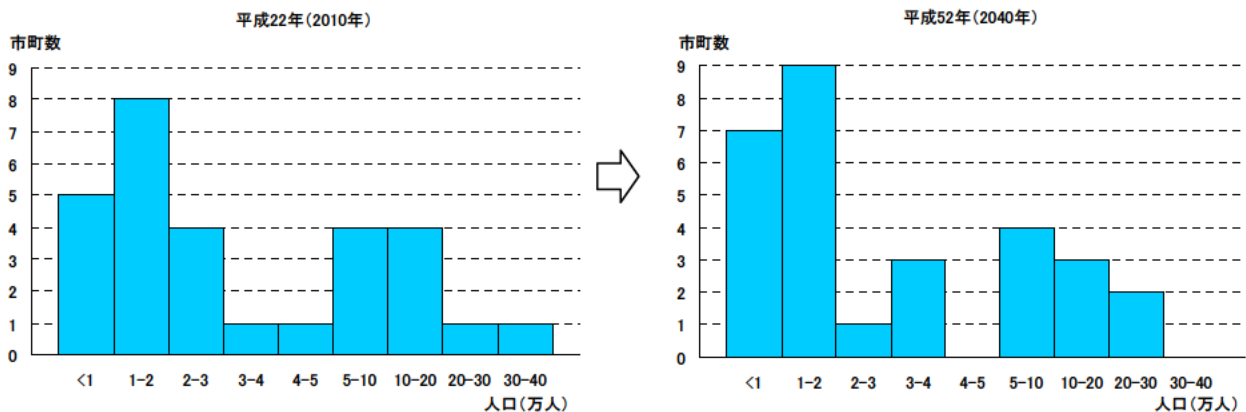
市町別に平成22年の人口と平成22年から52年の人口増減率の相関をみたのが次のグラフです。(白抜きは県南部地域の市町)



- 三重県の市町においては、人口と増減率との相関関係は見られない。
- 人口減少率は総じて県南部地域で高く、高い順から南伊勢町、尾鷲市、大紀町、熊野市、紀北町、志摩市等12位までが南部地域。

## (3) 市町の人口規模別数の変化

現在及び将来(平成52年)の県内市町の人口規模別数について、ヒストグラムで表したのが次の図です。



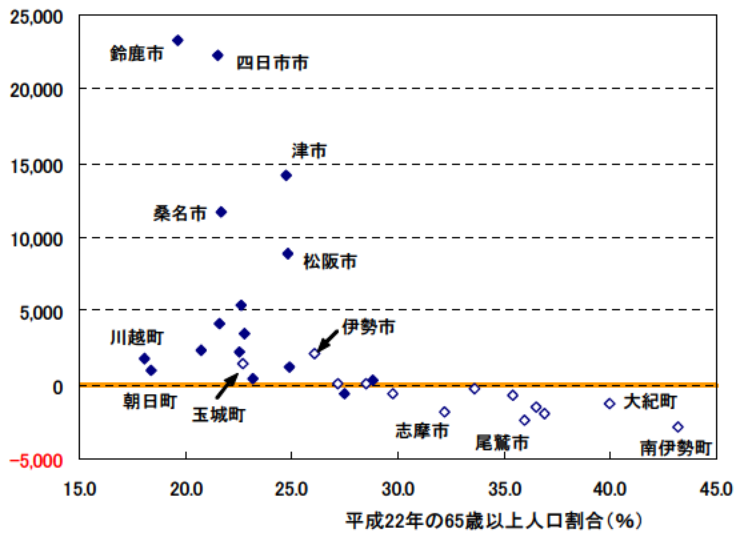
- 人口2万人以下の市町が13→16に増加(全市町の半数以上に)
- 人口1万人以下の市町が5→7に増加(町の約半数に)



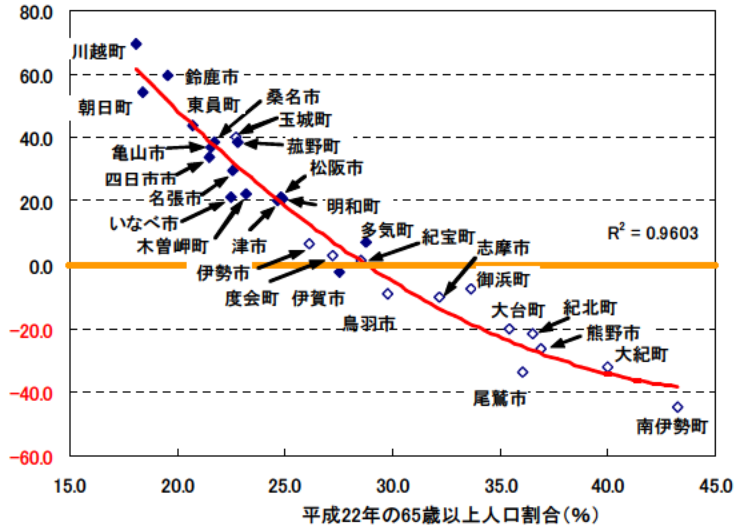
#### (4) 市町の65歳以上人口の増減数及び増減率

平成22年の65歳以上人口割合(高齢化率)と、平成22年から52年の増減数及び増減率の相関をみたのが次のグラフです。(白抜きは県南部地域の市町)

65歳以上人口増減数(人)



65歳以上人口増減率(%)



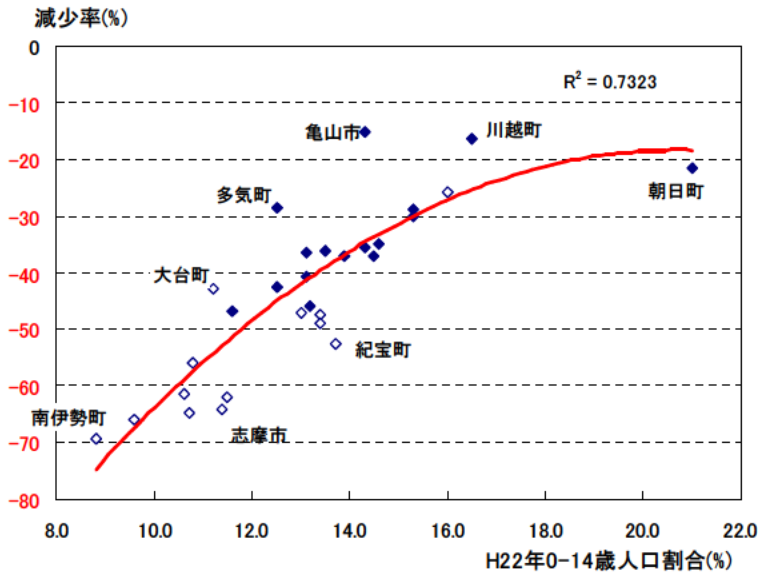
三重県市町の65歳以上人口割合と増減数・率

	H22年65歳以上人口割合(%)	H22→52増減数	H22→52増減率
三重県	24.3	92,047	20.4
南伊勢町	43.2	-2,855	-44.7
大紀町	40.0	-1,262	-32.0
熊野市	36.9	-1,907	-26.3
紀北町	36.5	-1,474	-21.7
尾鷲市	36.0	-2,449	-34.0
大台町	35.4	-743	-20.1
御浜町	33.6	-231	-7.3
志摩市	32.2	-1,837	-10.4
鳥羽市	29.8	-585	-9.2
多気町	28.8	307	6.9
紀宝町	28.5	40	1.2
伊賀市	27.5	-636	-2.4
度会町	27.2	65	2.7
伊勢市	26.1	2,154	6.3
明和町	24.9	1,180	20.8
松阪市	24.8	8,829	21.2
津市	24.7	14,168	20.0
木曽岬町	23.2	358	22.5
菟野町	22.8	3,504	38.4
玉城町	22.7	1,399	40.2
名張市	22.6	5,416	29.9
いなべ市	22.5	2,168	21.1
桑名市	21.7	11,719	38.5
亀山市	21.6	4,110	37.3
四日市市	21.5	22,251	33.7
東員町	20.7	2,330	44.0
鈴鹿市	19.6	23,308	59.5
朝日町	18.4	964	54.5
川越町	18.1	1,756	69.5

- 65歳以上人口は、都市部で大きく増加する。特に65歳以上人口割合の少ない鈴鹿市、四日市市で大きく増加。
- 県南部地域は現在の65歳以上人口割合が高く、人口減少率も高いが、将来の65歳以上人口は減少する市町が多い。
- 65歳以上の人口増減率は、現在の65歳以上人口割合が高い市町ほど低くなる(減少する)傾向にある。

(5) 市町の0-14歳人口の減少率

市町別に平成22年の0-14歳人口割合と、平成22年から52年の減少率の相関をみたのが次のグラフです。(白抜きは県南部地域の市町)

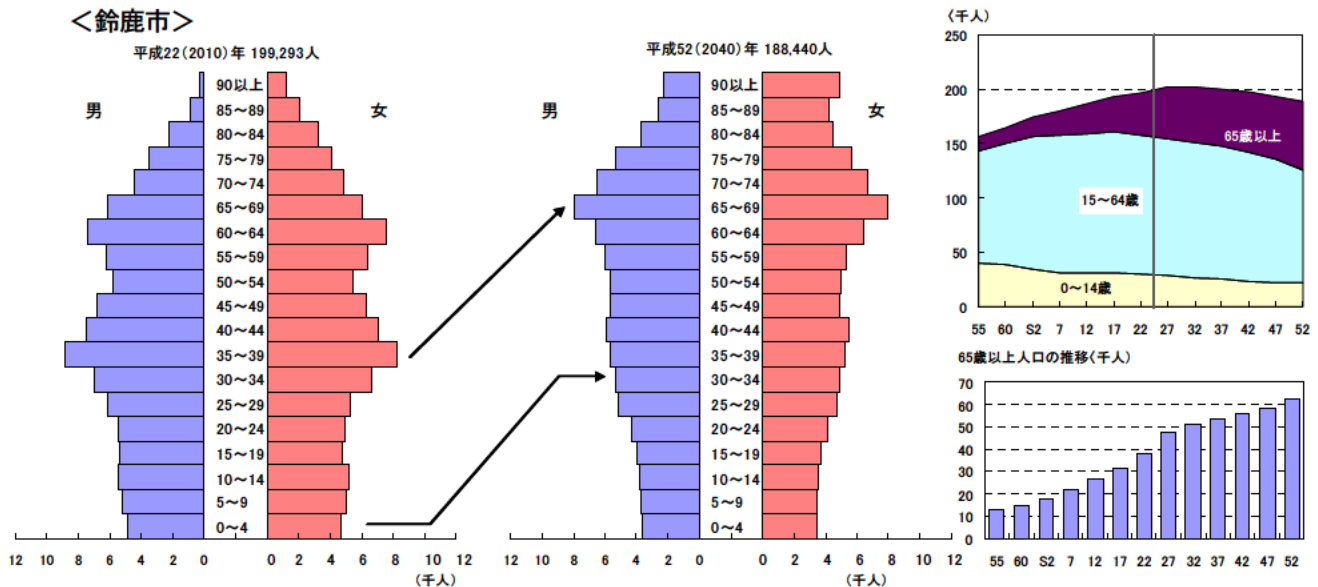


	H22年0-14歳人口割合(%)	H22→52増減数	H22→52増減率
三重県	13.7	-95,274	-37.6
朝日町	21.0	-439	-21.7
川越町	16.5	-377	-16.3
玉城町	16.0	-629	-25.7
鈴鹿市	15.3	-8,834	-28.9
菟野町	15.3	-1,849	-30.2
桑名市	14.6	-7,157	-35.0
明和町	14.5	-1,226	-37.1
亀山市	14.3	-1,116	-15.3
四日市市	14.3	-15,613	-35.4
いなべ市	13.9	-2,350	-37.0
紀宝町	13.7	-858	-52.7
松阪市	13.5	-8,263	-36.3
御浜町	13.4	-596	-47.6
度会町	13.4	-571	-49.0
名張市	13.2	-4,856	-46.0
津市	13.1	-13,696	-36.5
東員町	13.1	-1,371	-40.6
伊勢市	13.0	-8,030	-47.3
多気町	12.5	-554	-28.6
伊賀市	12.5	-5,195	-42.7
木曾岬町	11.6	-374	-46.9
鳥羽市	11.5	-1,532	-62.0
志摩市	11.4	-3,985	-64.1
大台町	11.2	-503	-43.0
尾鷲市	10.8	-1,216	-56.1
紀北町	10.7	-1,285	-64.7
熊野市	10.6	-1,276	-61.4
大紀町	9.6	-624	-66.1
南伊勢町	8.8	-900	-69.2

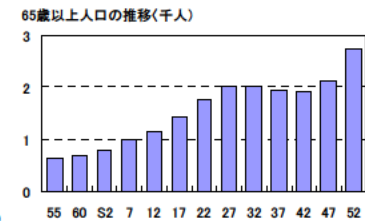
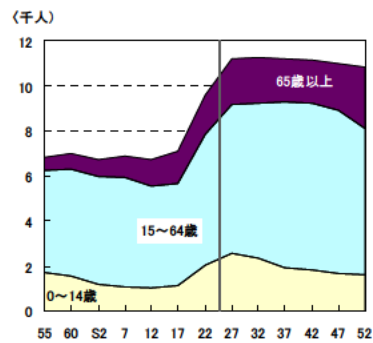
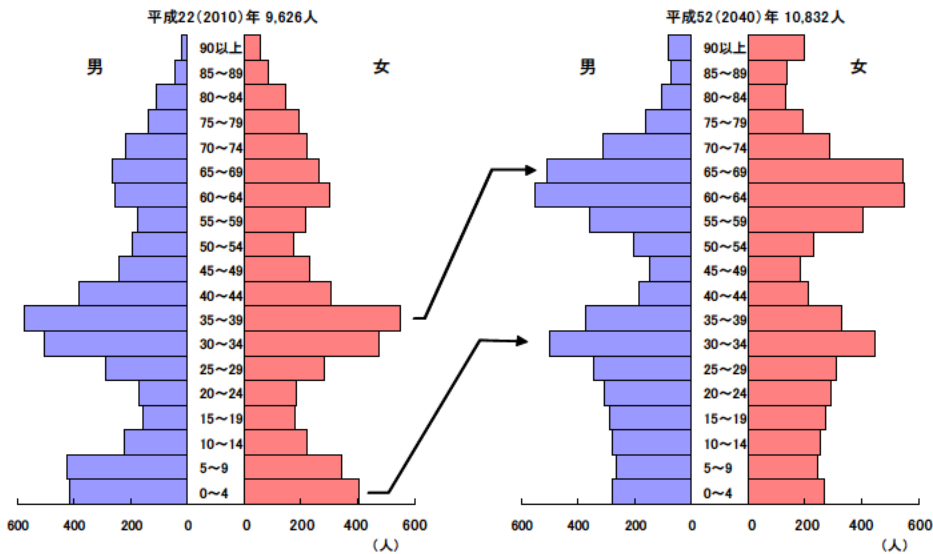
- 現在の0-14歳人口割合が高い市町ほど、0-14歳人口の減少率は低くなる。
- 南伊勢町、大紀町、紀北町、志摩市、鳥羽市等、県南部地域の8市町で0-14歳人口が半数以下に。

(6) 特徴的な市町の年齢別人口の推移

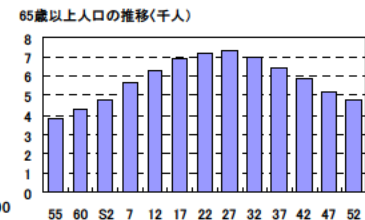
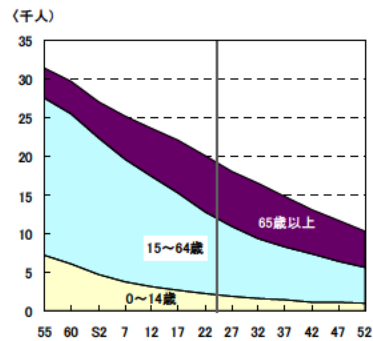
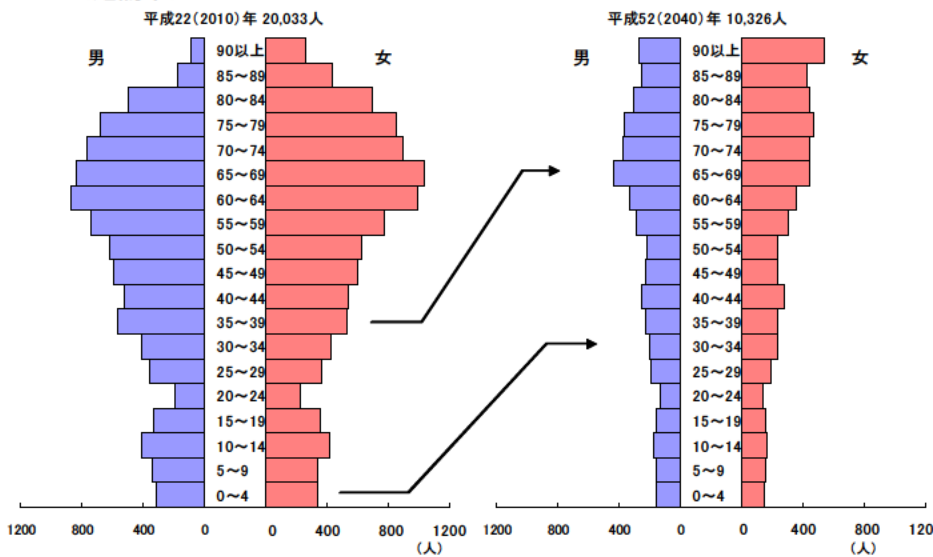
三重県内で人口増減率が高い鈴鹿市、朝日町、低い尾鷲市、南伊勢町について、人口ピラミッドの変化と年齢(3区分)別人口の推移をみたのが次のグラフです。



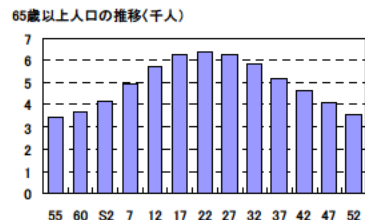
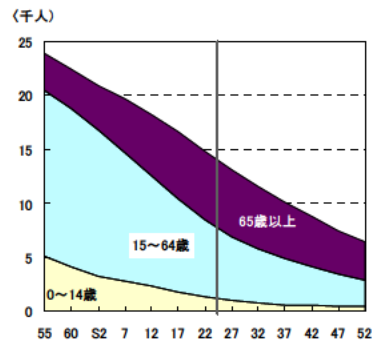
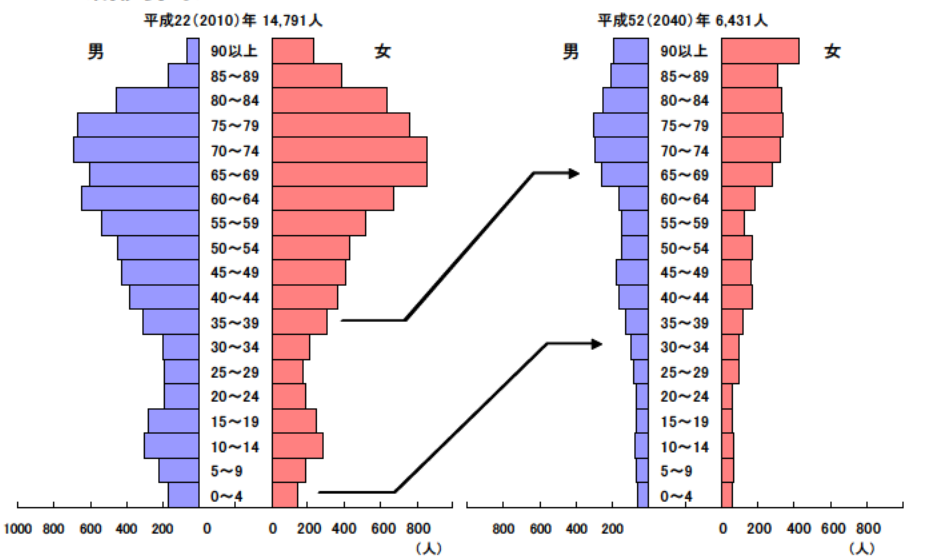
### <朝日町>



### <尾鷲市>



### <南伊勢町>



- 鈴鹿市、朝日町は人口減少は少ないが、65歳以上人口は平成52年にかけて大幅に増加する。
- 尾鷲市、南伊勢町はつぼ型で、将来は各年齢で減少するため、ピラミッドが細くなる。65歳以上人口は平成22~27年がピークでその後は減少が続く。



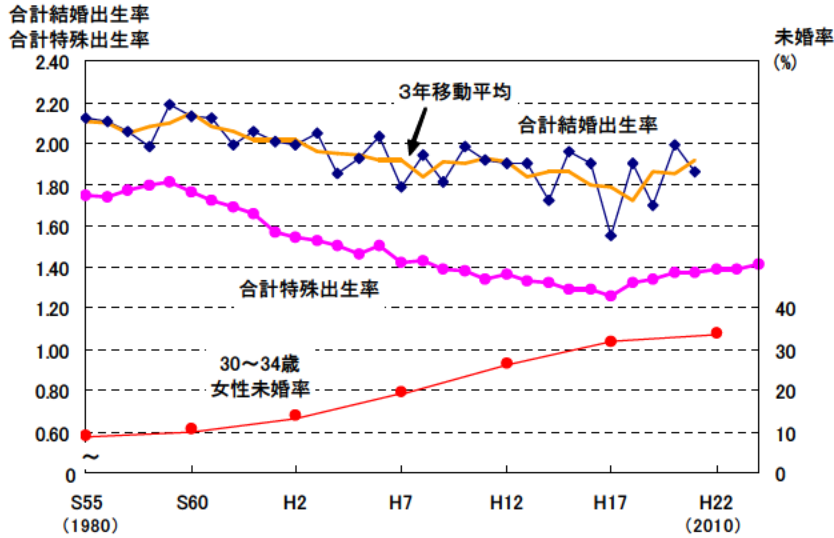
### 3 少子化の要因についての分析

#### (1) 合計特殊出生率、合計結婚出生率、未婚率の推移(全国値)

少子化の要因である合計特殊出生率の低下と、合計特殊出生率の低下をもたらしている未婚率、合計結婚出生率について推移をみたのが次のグラフです。

##### 【合計結婚出生率】

観察対象となる年次における夫婦の子どもの生み方を表す指標で、有配偶女性の結婚持続期間別出生率を合計することによって得られる。

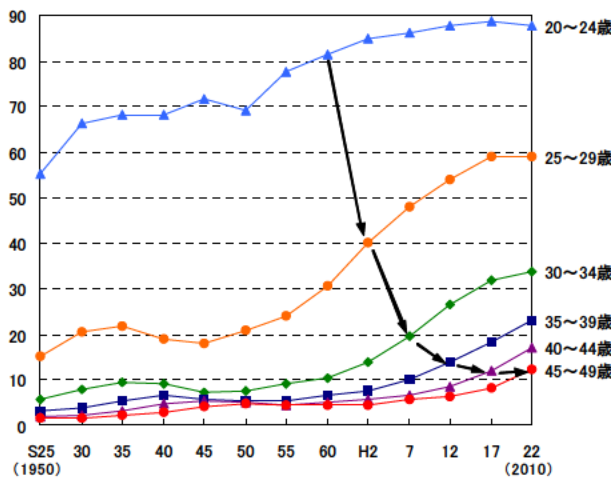


年次	合計特殊出生率	合計結婚出生率	30~34歳女性の未婚率 (%)
S55	1.75	2.12	9.1
S60	1.76	2.13	10.4
H2	1.54	1.99	13.9
H7	1.42	1.79	19.7
H12	1.36	1.90	26.6
H17	1.26	1.55	32.0
H21	1.37	1.86	
H22	1.39		33.9
H23	1.39		
H24	1.41		

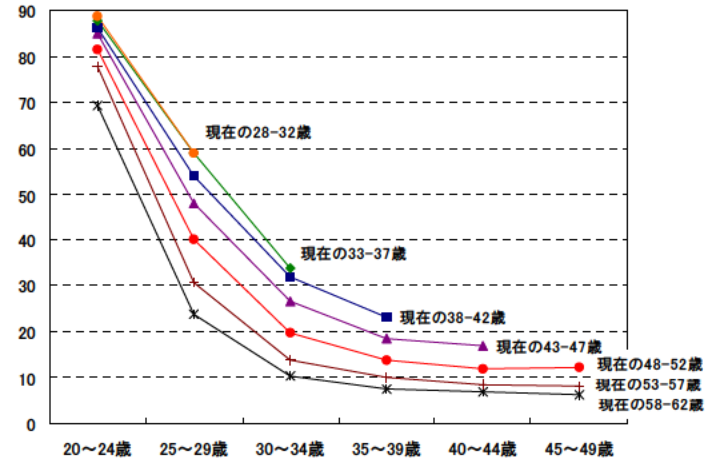
●合計特殊出生率が平成17年を底に回復傾向にあるが、その要因としては次のように考えられる。

- ①合計結婚出生率は、平成7年以降は毎年2.00を下回り低下傾向にあったが、3年移動平均は平成18年を底に急激に上昇に転じている。
- ②昭和60年から上昇を続けてきた30~34歳女性の未婚率の上昇スピードが平成17年から22年にかけて減速した。

#### (2) 女性の年齢別未婚率の推移(国勢調査・全国値)



##### 世代別の各年齢時点における未婚率 (%)



●20歳~34歳の女性の未婚率は昭和55~60年頃から急速に上昇してきたが、平成17年から22年にかけては各年齢階級とも上昇にブレーキがかかっている。

●世代が新しくなるほど晩婚化と生涯未婚化が進んできたが、平成12年世代以降歯止めがかかりつつある。

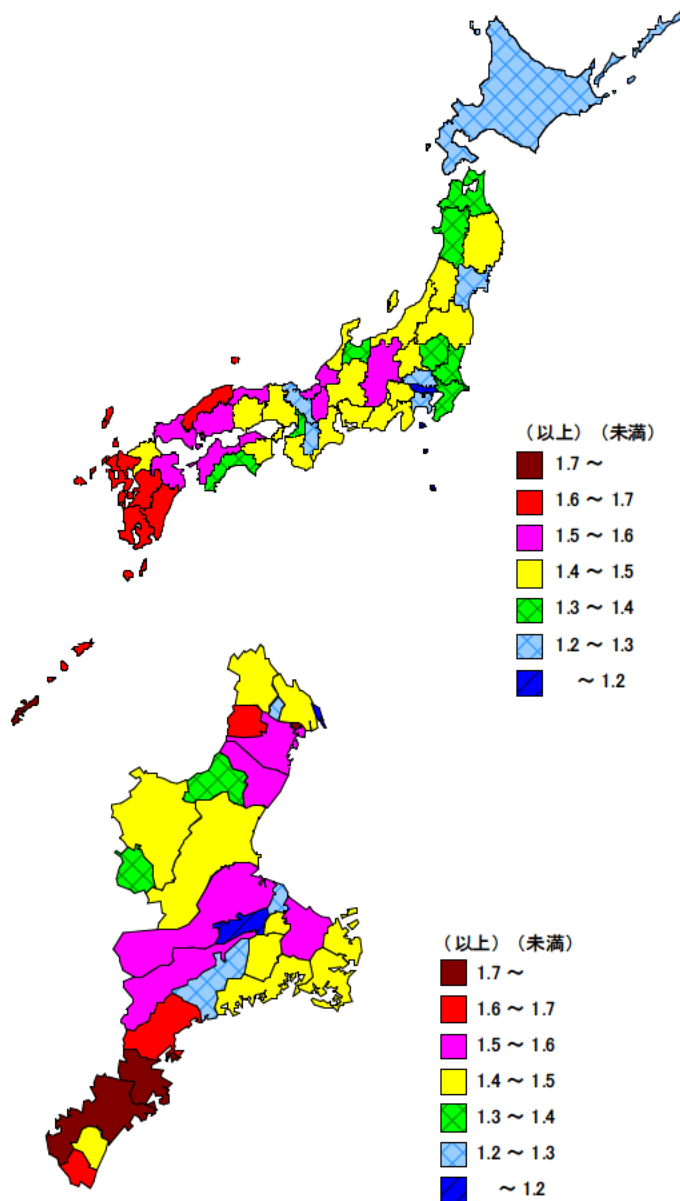
## 15 合計特殊出生率

### ● 合計特殊出生率

平成23年

都道府県	値	順位
全 国	1.39	
沖 縄 県	1.86	1
宮 崎 県	1.68	2
鹿 児 島 県	1.64	3
熊 本 県	1.62	4
島 根 県	1.61	5
三 重 県	1.47	21
奈良県他1	1.27	42
北 海 道	1.25	44
宮 城 県	1.25	44
京 都 府	1.25	44
東 京 都	1.06	47

市 町	値	順位
尾 鷲 市	1.86	1
朝 日 町	1.75	2
熊 野 市	1.73	3
紀 北 町	1.66	4
菟 野 町	1.64	5
紀 宝 町	1.64	5
鈴 鹿 市	1.59	7
川 越 町	1.59	7
伊 勢 市	1.54	9
大 台 町	1.54	9
四 日 市 市	1.51	11
松 阪 市	1.51	11
玉 城 町	1.49	13
度 会 町	1.49	13
鳥 羽 市	1.46	15
桑 名 市	1.44	16
御 浜 町	1.44	16
津 市	1.43	18
伊 賀 市	1.43	18
いなべ市	1.40	20
志 摩 市	1.40	20
南伊勢町	1.40	20
亀 山 市	1.39	23
名 張 市	1.38	24
大 紀 町	1.25	25
明 和 町	1.24	26
東 員 町	1.21	27
多 気 町	1.18	28
木 曽 岬 町	1.03	29



平成23年の三重県の合計特殊出生率は1.47で、全国より0.08高く、全国順位は21位となっています。  
 県内では、尾鷲市や熊野市など東紀州地域が高い傾向にあります。一方、木曽岬町、多気町等は低くなっています。

#### 【資料出所】

全国・都道府県：厚生労働省「人口動態統計」  
 三重県市町：三重県健康福祉部「平成23年三重県の人口動態」

#### 【備考】

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

## 21 未婚率〔男〕

単位：％

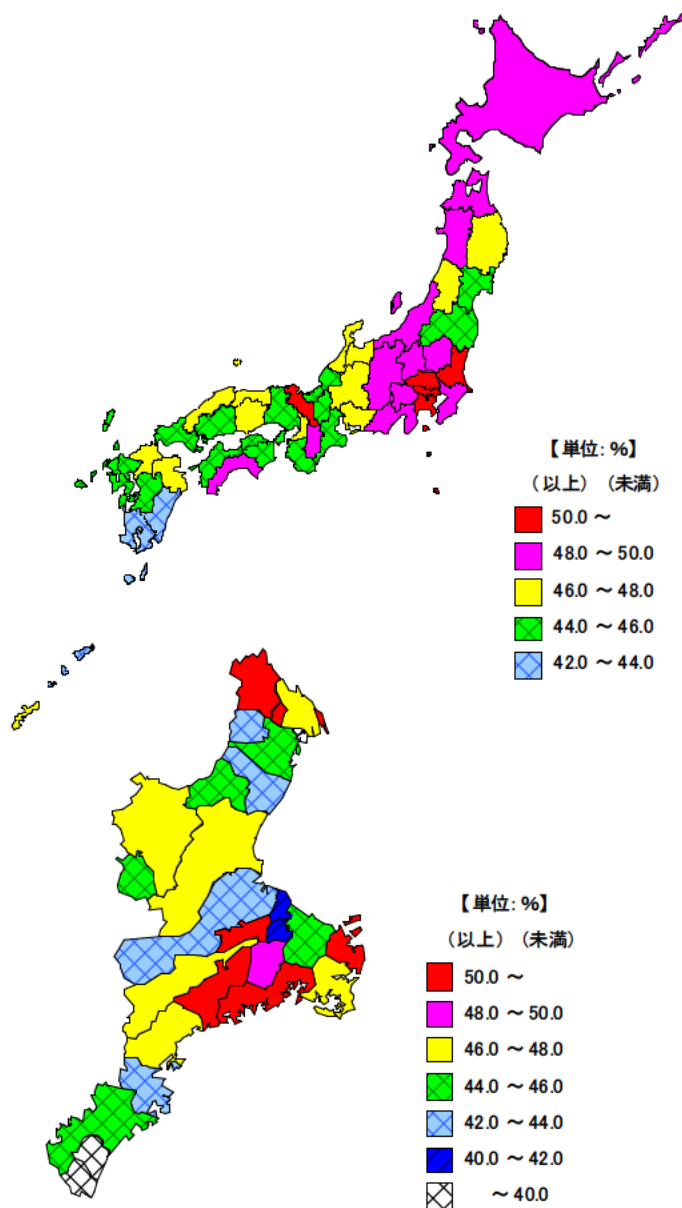
都道府県	未婚率	順位
全 国	48.3	
東京都	51.8	1
神奈川県	50.9	2
埼玉県	50.7	3
京都府	50.4	4
茨城県	50.1	5
三重県	45.4	35
宮城県	44.7	43
愛媛県	44.7	43
香川県	44.5	45
鹿児島県	43.6	46
宮崎県	42.3	47

### ● 未婚率(25歳～39歳)〔男〕

平成22年10月1日

単位：％

市 町	未婚率	順位
木曾岬町	55.6	1
鳥羽市	53.4	2
大紀町	53.2	3
南伊勢町	53.0	4
いなべ市	52.3	5
東員町	51.5	6
多気町	50.1	7
度会町	48.4	8
大台町	47.4	9
紀北町	47.1	10
伊賀市	46.7	11
志摩市	46.6	12
津市	46.4	13
桑名市	46.0	14
四日市市	45.8	15
伊勢市	45.5	16
亀山市	45.5	16
名張市	45.4	18
熊野市	44.8	19
鈴鹿市	43.1	20
松阪市	42.9	21
菟野町	42.6	22
尾鷲市	42.3	23
玉城町	41.7	24
明和町	41.4	25
紀宝町	39.3	26
川越町	38.7	27
御浜町	36.9	28
朝日町	29.9	29



平成22年10月1日現在の三重県の25～39歳の男の未婚率は45.4%で、全国順位は35位となっています。

県内では、朝日町が29.9%で最も低いのをはじめ、4市町が40%以下となっています。一方、木曾岬町、鳥羽市、大紀町等7市町は50%を上回っています。

#### 【資料出所】

総務省統計局「国勢調査」

#### 【算出方法】

未婚人口(25～39歳)〔男〕÷人口(25～39歳)〔男〕×100

## 22 未婚率〔女〕

単位：％

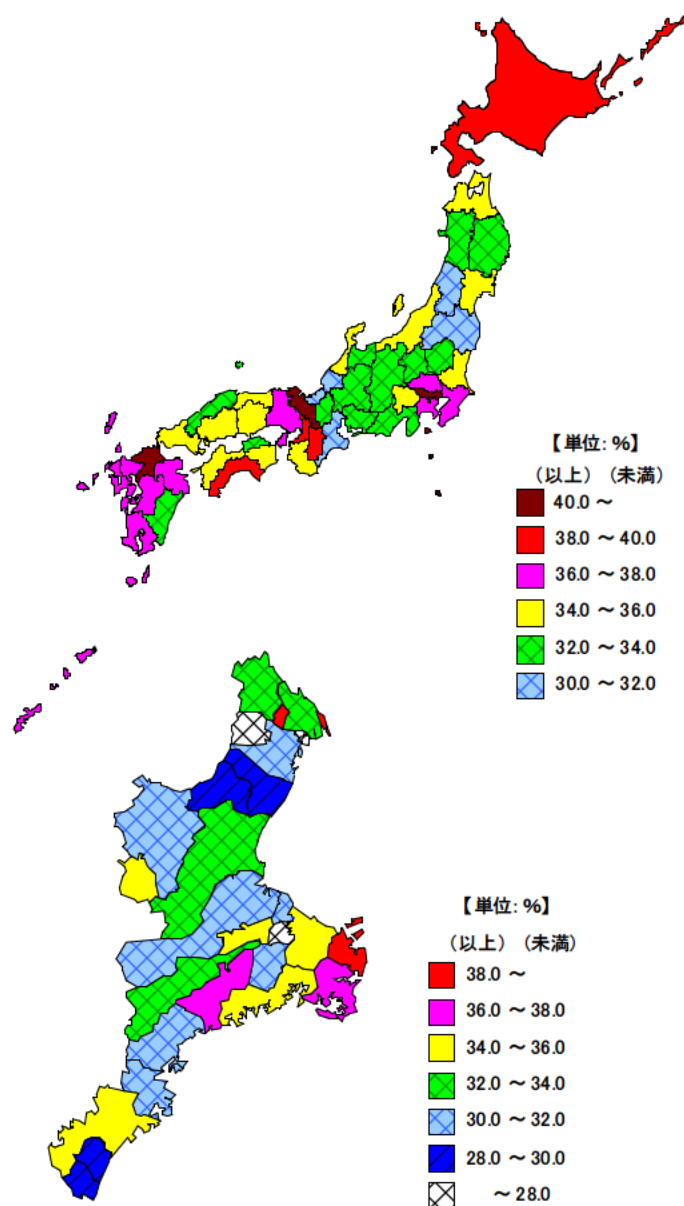
都道府県	未婚率	順位
全 国	36.7	
東京都	43.1	1
京都府	40.8	2
福岡県	40.0	3
大阪府	39.2	4
奈良県	39.2	4
岐阜県	32.3	43
三重県	31.8	44
山形県	31.6	45
福井県	31.5	46
福島県	31.3	47

● 未婚率(25歳～39歳)[女]

平成22年10月1日

単位：％

市 町	未婚率	順位
木曾岬町	38.9	1
東員町	38.7	2
鳥羽市	38.6	3
志摩市	36.4	4
大紀町	36.0	5
南伊勢町	35.6	6
熊野市	35.5	7
伊勢市	35.1	8
多気町	35.1	8
名張市	34.8	10
津市	33.6	11
大台町	33.0	12
いなへ市	32.3	13
桑名市	32.1	14
度会町	31.9	15
松阪市	31.7	16
紀北町	31.6	17
四日市市	31.1	18
尾鷲市	31.1	18
伊賀市	30.6	20
明和町	30.4	21
御浜町	29.8	22
紀宝町	29.5	23
亀山市	28.6	24
鈴鹿市	28.3	25
菟野町	27.8	26
玉城町	26.1	27
川越町	25.3	28
朝日町	17.5	29



平成22年10月1日現在の三重県の25～39歳の女の未婚率は31.8%で、全国順位は低い方から4位となっています。  
三重県は全般的に未婚率が低い市町が多く、朝日町が17.5%で最も低いのをはじめ、8市町が30%以下となっており、全国平均を上回っているのは3市町のみとなっています。

【資料出所】

総務省統計局「国勢調査」

【算出方法】

未婚人口(25～39歳)[女]÷人口(25～39歳)[女]×100